

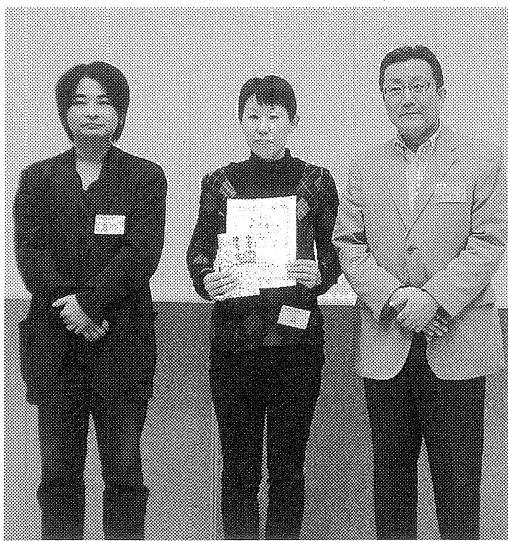
川崎陸送■QCサークル発表会

業務改善活動を提案

営業所の収益に直結

川崎陸送(樋口恵一社長、東京都港区)は11月27日、「KRT-QC(クオリティコントロール)サークル代表発表会」を開き、予選を勝ち抜いた11サークルが発表した。水処理薬品などの「移液作業の問題点」をテーマに取り組んだサークル「関門海峡」(山口営業所)が1位を獲得。改善提案制度表彰でも、同サークルの藤川格氏が最優秀賞と優秀賞、森真由美氏(福嶋和男氏と連名)が努力賞を受賞し、上位に入賞した。

関門海峡は、水処理薬品メーカーの工場内で配送センター業務を担っており、「2人作業時の連絡時のトランシーバー使用」「受け



樋口社長(右)と最優秀賞を受賞したサークル「関門海峡」の藤川氏(左)、努力賞の森氏

皿を小さく・浅くする」「エアロの角度を変える」などの対策を実施。「ポンプホースのパッキンの管理と交

換」では、パッキンの老朽化を随時チェックする体制を整えた。荷主からの信頼性向上とともに、コストを

掛け過ぎない改善が評価された。

サークルを代表し、樋口社長から表彰状を受け取った藤川氏は「関門海峡はすべての職種が参加するサークルで、今回はドライバーが今までにないくらい真剣に取り組んでくれた」と強調。改善提案制度で最優秀賞を含む2部門での自身の入賞については「取れると思わなかった。改善提案は営業所の収益に直結する。次回も賞を取れるように良い提案を出したい」と話した。

来賓のNTSロジ(福岡県東久留米市)の笠原昭久社長は「当社も改善活動に取り組んでいるが、営業活動の最大のポイントは会社の改善であり、みなさんがそこに向かっていく姿勢が大事」と激励。江ノ島電気自動車部業務課の中川滋幸課長代理が、人材育成に着目した小集団活動「H(ヒューマニスティック)QC(クオリティ)M(マネジメント)」を紹介した。

(石井 麻里)